

瓦版 かわらばん

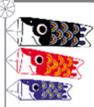


NPO
熊取子どもとおとなの
ネットワーク

No.1

発行日：2023年5月11日

発行：NPO熊取子どもとおとなのネットワーク 〒590-0432 大阪府泉南郡熊取町小垣内 1-10-18 中内ビル2階 TEL072-451-1550



入所式・卒所式

*4/7(金)「2023年度学童保育所入所式」

16クラブ167名のいちねんせいのみなさん、入所おめでとうございます!

各クラブで小学校入学式の午後に、学童保育所の入所式をおこない、上級生たちが新入生の子どもたちと保護者を招いて、新入生の紹介をしたり、学童保育所のあそびを披露したりしました。



*3/17(金)「2022年度学童保育所卒所式」

16クラブ47名の卒所生と保護者のみなさん、卒所おめでとうございます!

すべての16クラブで、保育時間中に卒所式を開催することができました。47名の卒所を、卒所生保護者と在所生・支援員でお祝いし、送り出しました。卒所生は6年間のみんなとかかわった思い出や、自分の成長を卒所論文(作文)に綴り、同じ時を過ごした在所生の前で気持ちを込めて読み、卒所しました。



卒所保護者の声

「貴重な経験をしました」

4年生の終わりに以前に通っていた学童が閉所し、5年生からげんきクラブにお世話になりました。色々な不安もある中での入所でしたが、日に日に新しいお友達も増えていき、新しい遊びも覚え、大好きなトカゲとり、シッポとり、汗だくになるまでたくさんの事を楽しんでいました。コロナ禍で中止になっていた野外活動も6年生で行くことができ、バスに乗り、皆でマッチでの火おこし、お米を炊いたり貴重な経験を

させていただいたと思います。思い返せばたくさんの思い出がありますが、お友達とぶつかり合った時、わがままを言った時、きちんと話を聞き向きあってくれた支援員の先生方に色々な事を教えて頂いたと思います。休日一緒に遊んでくれたお友達、家族でのお出掛けに誘ってくれた方もいらっしゃいました。かわいがってくれた親御さん、息子が今でも頼りにしている支援員の先生方に本当に感謝しています。最後に息子のために卒所式に協力してくれたげんきクラブのみなさん、忘れられない素敵な卒所式でとても感動しました。
(中央学童保育所保護者)

「色んな子どもたちやおとなたちに出逢い関わって、刺激を受け、成長しました」

上級生にたくさん可愛がってもらった低学年のとき。大きなお兄ちゃんやお姉ちゃんたちにたくさん甘えさせてもらいました。手を繋いでもらったり、おんぶしてもらったり、ぶつかりあって一緒に遊んで、大好きな高学年ができて、毎日目をキラキラさせながら学童に通っていました。中学年になり、言いたい放題そのまんまの低学年たちを疎しく感じるようになり、「ムカつくわ〜」とよく家で怒っていました。下の子達に強く言って怖い思いをさせてしまい、親子で謝りに行ったこともありました。高学年になると、低学年の子たちがケンカして泣いたり怒ったりしているのを目を細めて「可愛いわ〜」と言っていたり、下の子たちから手紙や絵をもらって大事にしまっていたり。卒所を迎えた今、娘が学童で色んな子どもたちやおとなたちに出逢い関わって、刺激を受け、成長させてもらっていることをあらためて感じました。
(南学童保育所保護者)

「多くの人たちの子育てへの熱い思いのもとで〜」

西学童で兄妹二人がそれぞれ6年間お世話になり、この春に完全に卒所した保護者(父)です。9年の間にクラブ数の拡大やクラブ割りの再編などで所属クラブが何度か変わりましたが、どのクラブのときも毎日の放課後、キャンプやSL合宿などのイベントと、子どもたちにとって密度の濃い大切な経験をたくさんさせてもらいました。卒所アルバムには、家では見られないはじける笑顔、おふざけ顔、真剣な表情が、子どもたちにとっての大事な時間とともにギュ〜ッと詰まっているようで、何度見返しても心があたたまる素敵な宝物です。学童の最後の1年からはNPOの理事としても関わることができ、学童運営の裏側ものぞかせてもらいました。指定管理者制度に移行し、学童っ子の数はどんどん増え、運営には相当な苦労がありますが、NPO職員、保護者、OB、支援員など多くの人たちの子育てへの熱い思いのもとで運営されていることがわかりました。理事のひとりとしてNPO活動に関われることを誇りに思い、今後も熊取の子育てに少しでも恩返しができるかと思っています。
(西学童保育所保護者)

『学童は私の居場所になりました』『学童に出会えて本当に良かった』

娘は5年生の夏休みから学童に入所しました。人見知りが強く、自分の気持ちを言語化するのが苦手な娘は、学童の仲間・支援員さんと過ごす日々の中で大きく成長することができました。娘が『学童の仲間は言いたいことを言えている。支援員さんはどんなことでもまず一旦受けとめている』と話していたのがとても印象深く、相手の話は先ずは聞く、そこから自分の意見があったら伝える。その中で信頼関係が生まれ安心安全の場所になり、積極的に物事に取り組み楽しんだり、仲間意識が生まれたりできるんだなど、親自身も娘の成長を目の当たりにし、改めて学ばせていただきました。卒所式で娘がみんなの前で発表した卒所論文。恥ずかしながらも、最後の言葉で『学童は私の居場所になりました』と堂々と前を向いて話した娘の表情はとても晴れ晴れしく、学童に出会えて本当に良かったと心から思いました。学童の仲間のみんな・いつも娘の気持ちを大事に寄り添っていただいた支援員さん、ありがとうございます。(北学童保育所保護者)

「学童での6年間は大事な時間、自分(息子)が輝ける居場所だった」

今年の3月に息子が学童を卒所しました。息子は人前で発表することが大の苦手。2年前お姉ちゃんが卒所した時、「卒所論文発表するの嫌やから卒所前に学童をやめようかな」と話していました。でも息子は学童が大好き。低学年に頼られて遊びに誘われたり、こま検定には、のめり込んでやめるどころか、弟は学童を休みたいたいと言っても「俺はいくわ」と言い、学童に通う毎日。そんな子が卒所することに親としてはこれから学童がなくて大丈夫なのかと心配でした。卒所式では嬉しい反面緊張の表情でした。嫌だと言っていた卒所論文の発表は緊張のあまりロボットみたいな読み方でしたが、本人の頑張りがすごく伝わって成長もすごく感じました。学童での6年間は息子にとって大事な時間であり、自分が輝ける居場所だったんだなとすごく感じた卒所式でした。

中学生になって1か月。学校の帰り学童に寄ってきてもいいよと言っても「まだ行かんくても大丈夫」と話しています。困った時や悩んだ時は何も言わなくても自分が安心できる場所に行くんだろうなと思っています。今まで息子の成長を見守り、真剣に向き合ってくれた支援員のみなさまには感謝しかありません。またフラッと行く日があると思います。その時はよろしくお願ひします。
(東学童保育所保護者)